

蚊の季節がやってきました

昨年、約70年ぶりに日本国内で感染が確認されたデング熱症例が報告されました。デング熱はウイルスを持った蚊に刺されることで発症し、人から人へは感染しません。早めの対策で、蚊に刺されないようにしましょう。

○幼虫対策

蚊は水面や水際に卵を産み、卵がふ化すると蚊の幼虫(ボウフラ)になります。溜まり水(特に一週間以上放置された水)はボウフラの発生源となります。定期的に家の周りを点検して、水が溜まる場所をなくしましょう。



成虫の蚊は生息範囲が広がり、対策が難しくなります。幼虫(ボウフラ)の発生を予防することが大切です。



～水たまりができてやすい場所～

・雨ざらしの容器



・植木鉢の受け皿



・屋外に置かれたタイヤや空き缶



○成虫対策

蚊の成虫に対しては、刺されない対策が必要になります。周りに手入れされていないやぶはありませんか？風通しの良い環境には蚊は潜みにくくなります。

～蚊に刺されないために～

- ①網戸を有効に利用する(蚊の侵入を防ぐ)
- ②肌を露出しない
- ③忌避剤(虫よけスプレー、蚊取り線香等)を使用する
- ④蚊が潜んでいる場所(やぶや草むら)の定期的な手入れをする



Q.蚊が媒介する感染症って？

ウイルスを持った蚊に刺されることで感染する(蚊が媒介する)感染症は、デング熱の他に「ウエストナイル熱」「チクングニア熱」などがあります。

いずれも現在は日本国内で感染した報告はないため、過度に心配する必要はありません。しかし日頃から蚊に刺されないための対策をすることはとても大切です。

熱中症予防の3か条

暑さを避けよう

- ・暑い日は無理せずに休憩する、日陰を選んで歩く。
- ・ブラインドなどを活用、網戸で風を通す、我慢せずに冷房を使う。
- ・襟元をゆるめる、日傘や帽子を活用。



こまめに水分補給

- ・汗を多くかいた時は、水だけでなく塩分や糖分も必要！！市販のスポーツドリンクや経口補水液を活用すると便利。
- ・喉が渇く前に時間を決めて（起きた時、食事と一緒に、寝る前など）水分補給。



個人の体調を考えよう

- ・その日の体調によって影響されるので体調が悪い時は無理しない。



●問い合わせ先● 福祉保健課 健康づくり係 ☎ 045-510-1832

お祭りやイベントでの食中毒を予防しよう！

夏祭り、花火大会、学園祭・・・お祭りには模擬店が欠かせません。作って楽しく、食べておいしい模擬店はイベントで大人気ですが、模擬店の中は作業スペースも限られ、衛生状況が十分に確保できないため、食中毒のリスクも高くなります。そのため調理には細心の注意が必要です。



【過去に起こった食中毒事例】平成26年7月に静岡市で開催された花火大会において「冷やしキュウリ」の提供による腸管出血性大腸菌 O157 の食中毒が発生しました。患者数は500名を超え、入院患者も100名を超えました。

☆食中毒の予防三原則☆

- ① 菌をつけない・・・手洗いをしっかりと！調理器具は用途別に！
- ② 菌を増やさない・・・食品の長時間保存はしない！早く食べてもらう！
- ③ 菌をやっつける・・・食材をよく洗う！十分に加熱を！



～食中毒を予防するために～

- ☑食べる直前に加熱調理するメニューを選ぶ。
- ☑仕込みなどで前日に調理をしない。
- ☑体調の悪い人は食品に触れる作業には従事しない。
- ☑手袋を使用して、直接食品に触らない。

カレーは当日に調理しましょう。
提供をする前に、かきませながら、
中心部まで十分に再加熱しましょう。

食中毒を予防し、みんなで楽しいお祭りにしましょう。



地域行事で食品を取り扱う方は事前に「行事開催届」のご提出をお願いします。

行事開催届 横浜市保健所 検索 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/syoku-anzen/gyouji/>

お問合せは・・・生活衛生課食品衛生係（電話 510-1842 FAX 510-1718）